

## 変わりゆくブルカの姿

—パキスタン・ラーホールの街角で—

賀川 恵理香\*

2017年夏、フィールドワークのために、パキスタン人の友人らとともにラーホールにあるアナール・カーリー・バーザールという古いバーザールを訪れた。アナール・カーリーとは、ウルドゥー語で「柘榴の蕾」を意味し、<sup>1)</sup>バーザールの名前はムガル朝第3代皇帝アクバルの息子、サリーム王子（のちのジャハーンギール帝）と関係をもったことでアクバル帝に追放された踊り子の名前に由来するとされている。

1947年のインド・パキスタン独立前から存在し、長い歴史を誇るアナール・カーリー・バーザールの中は、きらびやかな服飾店やアクセサリー・ショップ、靴屋などさまざまな種類の店が軒を連ねる。曲がりくねった通りを歩いていると、時折お盆にたくさんのチャーエのコップを載せて慌ただしく運ぶ若い男性とすれ違う。<sup>2)</sup>バーザールを営む主人たちにチャーエを届けるのだ。店の販売員は大体が男性であるが、バーザールへは男性も女性も買い物に訪れる。バーザールは値段交渉や客引きの声であふれ、活気に満ちている。

今回は、その一角にあるブルカ販売店3



写真1 アナール・カーリー・バーザールの様子

店舗にて、インタビュー調査を行なった。パキスタンの文脈におけるブルカとは、首下から足首までを覆う長袖の緩やかな外衣のことで、ヒジャーブと呼ばれる頭から胸を覆うヘッド・スカーフと一緒に着用される。そのため、ブルカの販売店では、ブルカの他に、ヒジャーブ（ヘッド・スカーフ）やニカーブ（顔を覆う布）なども一緒に店頭で並べられていることが多い。イスラームを国教とし、パルダと呼ばれる男女の性別規範が根強く存在するパキスタンにおいて、<sup>3)</sup>女性たちは、通常シャルワール・カミーズと呼ばれる膝くらゐまである長袖のシャツ（カミーズ）と、

\* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

1) パキスタンの国語 (national language). 多民族多言語国家であるパキスタンにおいては、各地域にそれぞれの現地語が存在し、その共通語としてウルドゥー語が用いられている [萬宮 2004: 83-84]. なお、パンジャーブ州に位置するラーホールでは、ウルドゥー語の他、パンジャービー語という言語が現地語として多く用いられている。  
2) ミルクティーのことであり、大変に甘い。

長ズボン（シャルワール）、ドゥパッター（長さ 2.4 m、幅 1.1 m ほどの比較的薄手の布）3 点から構成される民族衣装を身に着けており、ブルカを着る場合はその上に羽織る形で着用される。ブルカを着用することで、シャルワール・カミーズを着用しているときよりも身体の線が隠れるため、ブルカを着ている方がより被服の度合いが高いとみなされる。よって、ブルカを着ている女性はより「宗教的である」とみなされることが多い。

インタビュー調査においては、5 年前にオープンした比較的新しい店舗（A）、50 年ほど前から営業している老舗（B）、独立前の 75 年ほど前から営業している一番の老舗（C）の 3 店舗の店主または販売員から話を伺った。アナル・カリー・バーザールでのブルカの相場は Rs.1,500–2,500（¥1,530–2,550 ほど。以下、いずれも 2017 年 12 月 28 日現在の



写真 2 ブルカを着用した女性の姿

レート）であり、シンプルなデザインのものほど値段が安く、装飾が施されているものほど値が張るということである。

インタビューでは近年のブルカのデザインの変化について尋ねた。一番の老舗の C 店の店主は、「最近装飾の施されたブルカがよく売れる。シンプルなデザインのはあまり売れなくなってきている」と、近ごろの売り上げ傾向について説明してくれた。そのうえで、「宗教的な動機でブルカを着る女性たちがシンプルなものを選ぶのに対し、装飾的なブルカを好んで着る女性たちは、宗教的な理由ではなく、ファッションとしてブルカを身に着けているのではないかと客層の傾向についても言及していた。比較的新しい店である A 店の店主も、「最近デザインが施されたものがよく売れるため、そのようなものを指定して発注している」と話す。実際、筆者が調査した 3 店舗ともに、店内にはカラフルなブルカや美しい刺繍や装飾が施されたブルカが多数展示されていた。

B 店でのインタビュー中、買い物に来ていた 30 代前後の既婚女性 2 人と話をすることがあった。知り合いにプレゼントするためのブルカを選んでいるという彼女たちは、プレゼントする相手の年齢に合わせて、ブルカのデザインを変えているという。「ひとりはい若い女の子だから、最近流行りの裾が広がったデザインのものあげる予定よ。もうひとりはい年を取った女性だから、裾が広がったタイプはダメね。あまり広がらないタイプのもの

3) パルダはインド、パキスタン、バングラデシュを中心とした南アジア地域に広く存在し、狭義には女性が衣類を用いて自らの身体を隠すこと（Veiling）、広義には男女の生活空間の分離を指す。



写真3 C店の様子



写真4 パッケージーズ・モール内部の様子

がいいわ。」このように、消費者として実に敏感にスタイルの流行り廃りに対応している彼女たちの姿を目の当たりにし、筆者はそれまでブルカに対して抱いていた、「被服の度合いを高めるための機能的なもの」という認識を改めた。

さて、ラーホールにはアナール・カリー・バーザールのような歴史あるバーザールの他、大型ショッピングモールのような商業施設も多数存在する。このようなショッピングモールには、国内外の有名ブランドが店を連れ、大型の食料品店が併設されていることが多い。セキュリティ・チェックの設置されているモールもあり、その内部はまるで違う世界のようなものである。

2017年にオープンしたばかりの「パッケージーズ・モール」には、ブルカを専門的に扱う店舗があり、今夏のフィールドワークではそのうちのひとつの店舗にも足を運んだ。きらびやかな店舗の中には、さまざまな種類のブルカが展示されており、女性の販売員が対応してくれた。彼女によると、その店舗で売られているブルカの多くはドバイやサ

ウジアラビアの生地を輸入して作られたものであり、デザインはトルコやドバイで流行りのものを取り入れているという。その価格も、Rs.5,000-10,000 (¥5,090-10,180 ほど)。ブルカの種類も豊富で、年配の女性のためのシンプルなものから、若い女性向けのファッショナブルなものまでさまざまなデザインのブルカが販売されている。ファラーシャ・スタイルという袖の広がったブルカのデザインを紹介しながら、彼女は英語交じりのウルドゥー語で、「このスタイルは、初めてブルカを着る女性に最適です。スタイリッシュでありながら、きちんと身体を覆うこともできますから」と述べた。ここでも、ブルカが明確にファッションの一部として意識されており、被服の程度を高めることと流行にのったおしゃれな格好をすることの双方の機能が果たされている。

このように、今や一部でブルカはファッション・ステートメントとして存在している。ブルカが値段的にもデザインのにも多様化している現在、ブルカを着ることの意味も変わってきているのではないだろうか。つ

まり、これまでブルカを着用することで「宗教的である」とみなされていた女性たちが、ブルカのファッション化に伴って、これまでとは違った方法で評価されるようになってきているということである。

実際、筆者のフィールドワーク中、ブルカを着ていない女性が「装飾の施されたブルカを着ている人は、宗教心からそれを着ているのではなく、そのステータスを見せつけたくて着ている」と言ってきらびやかなブルカを着用している女性を批判しているところを目にした。これは、これまでシンプルなもの主流であったブルカ自体がファッションとなることによって、ブルカの選択に経済的な格差が反映されるような状況となっていることを示唆している。

その一方で、ブルカを着用した女性は、筆

者に対して「私は自らの宗教心からブルカを着ているのに、ファッションとして着ていると言われてしまうのが嫌だ」と語った。ここでは、ブルカを着用を批判する女性も、それに反発する女性も、ブルカのファッション的側面を意識している点で、認識を共有している。パキスタン各地の都市化が進展し、さらに消費社会が拡大している現状において、ブルカを着ることの意味はどのようなものなのであるか、そしてそのデザインや着こなしはどのように変化しているのか。このような問題関心に従って、今後の研究を進めていきたい。

#### 引用文献

- 萬宮建策. 2004. 「地域語のエネルギーに見る国民統合と地域・民族運動」 黒崎卓・子島進・山根聡編『現代パキスタン分析—民族・国民・国家』岩波書店, 83-119.

## キャンディ、エサラ・ペラヘラ祭りのあと

—他者と関係を撚り結ぶ—

清水 加奈子\*

スリランカを発つ前日、その日に泊まっていたホテルで電話を受け、日本に帰ることを伝えると「今度はいつ来る？」と聞かれた。相手はキャンディで滞在したホテルの従業員である。キャンディを離れて2週間の間、

何度か電話があり、同じやりとりを3回はしていた。定型句のような「また必ず来いよ」にも嬉しくなり「必ず」と答えた。スリランカで知り合った多くの友人たちが、離れて暮らす家族や友人と頻繁に電話で繋がる姿

\* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科